

OTU OKAYAMA TEACHERS' UNION ニュース

OTUネット 岡山県教組のホームページ・アドレス <https://otu.or.jp/>

発行所

岡山県教職員組合
岡山市中区西川原255番地
〒703-8567
(電話) (086) 272-1278)

編集人 松尾 涼 児

発行人 吉田 康文

印刷所 株式会社iプランニングKOHWA

家族休暇の取得要件が拡大！

2025年1月1日から、家族休暇の取得要件が拡大されました。これにより、感染症による学級閉鎖や気象警報・事件など急迫した事情による臨時休校、さらには気象警報等に伴う子どもの下校時刻の繰り上げにも対応できるようになりました。県共闘交渉最終日の冒頭回答では、2025年4月1日からの実施予定とされていましたが、適用時期の前倒しをもとめて粘り強く交渉した結果、1月1日からの適用が実現し、家族休暇がより柔軟に取得できるようになりました。

2025年1月1日から

下記の要件でお子さんの学校が臨時休校等になった場合にも、
家族休暇が利用できるようになりました。

○感染症に伴う学級閉鎖 

○気象警報・事件その他急迫の事情 

※気象警報等に伴って下校時刻が早まった場合も対象

新年
あいさつ

組織強化・拡大をはかり、県教組運動を前進させよう！

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、5年ぶりに確定交渉に数百人の組合員が集まり、賃金引上げをはじめ、多くの前進回答を勝ちとることができました。また、春闘やメーデー、教研、護憲大会などの集会や、アンケート調査、一斉声かけ行動などの各種とりくみに多数参加いただきました。県教組運動前進のための皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

まだまだ教育現場には、長時間労働、多忙化、教員不足など、多くの課題があります。県教組は引き続き、子どもたちのゆたかな学びの保障、教職員が安心して働く

ことができる賃金・勤務条件や職場環境の確保などによりくんでいきますので、より多くの教職員を県教組に結集し、力強く運動をすすめていきましょう。

1月の倉敷市議会選挙には県教組特別執行委員の時尾博幸さんが、7月の参議院選挙には日教組組織内議員の水岡俊一さんが再選をめざして挑戦します。よりよい教育と、平和・人権・環境・共生を基調とする社会の実現のために、支援の輪を広げましょう。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

執行委員長 吉田 康文

専 門 部 活 動 報 告

岡山県教組の専門部は、職種や年代で構成され、様々な活動をおこなっています。特に県内での集会開催や中国地区・全国への集会参加は、地域を越えたなかまとつながれる貴重な機会です。今回は、その一部をご紹介します。

期限付採用教職員部 非正規教職員の処遇改善を！声を上げ続けることの大切さを確認



12月14日、ワークピア広島にて、「第9回臨時・非常勤教職員等中国地区交流集会」が開催され、中国地区の各単組から27人の参加がありました。参議院議員の古賀千景さんと、臨時・非常勤教職員等全国協議会事務局長の薄田綾子さんを講師に迎え、現場の実態や勤務労働条件に関する課題を共有しました。古賀議員は、自身の経験をもとに、非正規教職員が担う責任の大きさに対し、処遇が低く設定されている現状は改善されるべきだと強調し、国会での議論をつうじて解決にとりくんでいく決意を述べられました。また、「一人では変えられない現状も、組合に集い、声を上げれば変えることができる」と語り、参加者に連帯することの大切さを訴えられました。薄田事務局長は、現在非正規教職員が置かれている厳しい労働環境や不安定な雇用形態について全国の情勢を報告し、必ず管理職に勤務条件を明示させる仕組みや、職場全体で職員個々の勤務時間を周知する仕組みの必要性を指摘されました。また、勤務時間外の業務については、必要に応じた任用形態の変更や賃金の支払いが必要であることを強調されました。集会の最後には、「おかしいことはおかしいと声を上げ続けることで、処遇改善をすすめることができる」と全員で確認し、今後も課題解決にむけて粘り強く運動を続けていく決意を新たにしました。

本部執行委員 松尾 涼児

栄養教職員部 職務内容の明確化、定数改善等、各県の課題を共有



12月14日、ワークピア広島にて、「日教組中国・四国地区協議会栄養教職員部学習会」が開催され23人（うち岡山県教組より6人）が参加しました。まず、日教組栄養教職員部長の蔵前隆広さんより、栄養教諭の定数改善や給食費無償化に関する文科省への要請内容、およびこれらに関する国の動向について説明がありました。各単組からのとりくみ報告では、栄養教職員の勤務条件、給食センター化、保育所給食に関する課題が挙げられました。それぞれの県が抱える課題について報告した後、参加者同士で意見交換をおこない、課題解決にむけて各県で声を上げ、なかまとともにとりくんでいくことを確認しました。また、記念講演では、広島県高等学校教職員組合の元組合員の西岡由紀夫さんが

「被爆2世の一人として平和を考える」と題した講演をおこないました。「家族と戦争との関わりが今の活動の原点である」と語り、より多くの人に平和について考えてほしいと話されました。

本部執行委員 小田 久美子

幼児教育部 子どもたちが主体的に参画できる保育を学ぶ



幼児教育部では、教育実践力の向上と組合員の交流のために毎年学習会を開催しています。今年度は、8月3日におかやま西川原プラザで学習会をおこないました。講師に社会福祉法人檸檬会の青木一永副理事長を招き、「つながる保育で実践する幼児期のESD（持続可能な開発のための教育）」と題して、講演いただきました。

保育にSDGsを取り入れるというテーマに難しさを感じる参加者もありましたが、「ESDの目標は、主体性をもって社会に参画する担い手を育てること」「社会とのつながりの一歩目として子どもたちが園（クラス）へ主体的に参画できるようにできているか」という説明から日頃の保育につながり、学習を深めて

いました。後半には、グループ協議として子どもたちの参画を促すための「オープンクエスション」を使った遊びの展開を練習しました。質問をとおして、子どもたちの経験や環境を引き出し、周りイメージや意見を共有する手法に苦戦しながらも、子どもたちと遊びを作り上げていく方法を楽しく学びました。

本部執行委員 小田 久美子

今、本当に学校での集団フッ素洗口が必要なのか

2023年1月から、新見市内のすべての小学校で集団フッ素洗口が導入されました。また、津山および玉野のこども園や保育園では、2023年度より就学前の園児を対象に集団フッ素洗口が実施されています。さらに、2024年7月には、新見市が中学校への集団フッ素洗口導入を検討していることが明らかになりました。このように、近年県内の学校園で集団フッ素洗口導入の動きが活発化しています。岡山県総合政策局統計分析課が示している「むし歯（う歯）のある者の割合（年次推移）」によると、幼小中高のむし歯の割合は減少傾向にあります。そのようななか、学校で集団フッ素洗口にとりくまなければならないのでしょうか。学校保健活動は、子どもの実態を把握し、課題解決にむけたとりくみをおこなうものです。私たち教職員は、以下のような懸念が拭えない集団フッ素洗口を、本当におこなう必要があるのか、改めて考える必要があります。

学校で集団フッ素洗口を導入することの懸念

薬品使用に伴う安全性への懸念

薬品を使う以上、100%安全とは言えません。2024年9月には、北海道のこども園で、希釈用容器の消毒液（漂白剤）を捨て忘れ、その消毒液で、園児にうがいをさせたという事故が起っています。

世界保健機関（WHO）は、「6歳未満児にはフッ化物洗口を用いるべきではない」としています。

子どもたちに困り感を与える可能性はある

1分間ものうがいを続けることは、一部の子どもにとって苦痛に感じられる場合があります。新見支部の調査によると、味や匂いを嫌がるのが理由でフッ素洗口を希望しない児童もいるとの報告があります。このことから、フッ素洗口が子どもたちにとって負担となる可能性が示唆されています。

夏季に熱中症リスクが高まる

うがいの後は30分間、飲食や水分補給が禁止されるため、夏季には熱中症事故のリスクも懸念されます。

学校が安易に薬剤に頼ればよいという姿勢を示すことに

学校で指導すべきことは、安易に薬剤を使用することではなく、歯磨きによる保健指導や歯を意識した食育をおこなうことであり、自分の健康を自分の力で守ることです。学校教育のなかで安易に薬剤に頼ればよいという姿勢を示すことは望ましいとは言えません。

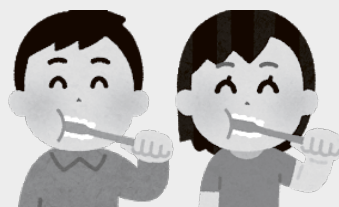
学校職員の業務負担大幅増加！

新見市では、ほとんどの学校が、1時間目を始める前等の朝の時間を使って集団フッ素洗口を実施しており、準備のためにいつもより早い時間に出勤せざるを得ないケースもあります。岡山県フッ化物洗口実践ガイドには、準備から片付けまで10分程度と記載されていますが、実際には、液のボトルの洗浄、拭き上げ、乾燥といった衛生管理を伴う作業が必要で、10分では到底終わりません。さらに、薬剤（フッ化ナトリウム洗口剤）は劇薬であるため、鍵付きのロッカーなどで厳重に管理する必要があり、教職員の負担は確実に増加しています。

～時代は「集団」から「個」へ～

個別の対応や合理的配慮が必要な子どももたくさんいます。学級集団のなかでもインクルーシブ教育をすすめ、担任をはじめとした教職員が協力して合理的配慮が必要な子どもと関わっています。食物アレルギー対応においても、子どもの口のなかに入れるものに関しては、常に敏感でなければなりません。今こそ、学校での集団フッ素洗口が本当に喫緊の課題として必要なとりくみなのか一緒に考えてみませんか。

（文責 養護教員部）





子どもたちの現実から、教育政策を具体的に創っていきます！

新年明けましておめでとうございます。

さて、全国的に不登校の子どもが増え続けており、その対策事業が様々展開されています。気になるのは、不登校状態の子どもの約半数が発達障害や学習障害など特別な支援が必要な子どもだと言われていることです。このことは、特別支援教育が十分機能していない証です。特別支援教育の再構築と充実が是非とも必要です。

こうしたことを議会で訴え続けてきましたが、岡山市では来年度スーパーバイザーを活用してのケース会議の量的拡充をすすめていくことになりました。

学校教育は制度疲労が著しいと感じています。まさに、課題山積です。今年も子どもや学校の現実をしっかりと見据え、明確な政策や事業の提案とその実現に向け一層頑張っていきたいと思います。ご協力をよろしくお願いします。

岡山市議会議員 小林 寿雄

教育環境整備で子育て支援の充実をめざす

新年明けましておめでとうございます。本年が、岡山県教職員組合ならびに組合員の皆様の末永い飛躍元年となりますことを、心よりご祈念申し上げます。

2期6年目を迎えた昨年は、組合員の皆様から頂いた負託に応えるべく、変わらぬ緊縮予算による津山市の教育行政改革を胸に秘め、不適な事業予算の削減や執行停止を求めるとともに、教育関係予算の充実と事業の推進・実現を重ねて訴えてきました。決してご期待どおりとは言えませんが、全校配置となった県費教師業務アシスタントの業務時間上乘せや特別教室エアコンの段階的な設置開始、学校徴収金の公会計化導入など、いくつかはお役に立てたものと思います。

今後とも現場の皆様の声にしっかりと耳を傾け、課題山積の教育環境整備・改善と子育て環境のさらなる充実に向け誠心誠意努めてまいります。

津山市議会議員 河村 美典



教育現場の声を倉敷市政へ

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は分会訪問や分会代表者会議などでお世話になり、ありがとうございました。昨年は倉敷市政にとっては、平成30年7月豪雨災害からの復興に向けた真備地区復興計画も昨年度をもって復興期間を終え、更なる発展に向けた創造期に入りました。7月には、復興防災公園として「まびふれあい公園」が開園しました。防災拠点としてだけでなく、真備の魅力を発信できる場として今後活用されたいと思います。

教育現場に目を向けると、山積する倉敷市の学校現場における課題解決のため、現場の声を市政に届ける必要性を改めて感じるところです。県教組特別執行委員として、引き続き、一生懸命働いて参りたいと思います。

今年の1月末をもって、私の5期目の倉敷市議会議員としての任期も満了を迎えます。今月におこなわれます倉敷市議選での6期目の挑戦に向け、日々奮闘しているところです。本年もご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

倉敷市議会議員 時尾 博幸